

問1 九州地方の農業と人口に関する統計において、人口密度が1024.1人/km²と1000人を超えて非常に高い県と、豚の産出額が723億円に達し畜産業が盛んな県の組み合わせとして、最も適切なものを選択してください。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 人口密度の高い県：沖縄県、豚の産出額が多い県：熊本県 | 2. 人口密度の高い県：福岡県、豚の産出額が多い県：大分県 | 3. 人口密度の高い県：熊本県、豚の産出額が多い県：鹿児島県 | 4. 人口密度の高い県：福岡県、豚の産出額が多い県：鹿児島県 |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

問2 鹿児島県を中心に分布する火山活動の噴出物によって形成されたシラス台地において、古くから稲作よりもサツマイモなどの畑作や畜産が中心となってきた理由として、土壌の性質を説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2019年 三重県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を妨げる性質を持っているから。 | 2. 土壌の粒子に隙間が多く水はけが非常に良いため、水田に必要な水を確保しにくいから。 | 3. 土壌の養分が過剰に含まれており、稲が病気にかかりやすいから。 | 4. 土壌が非常に硬い岩盤でできているため、農具で耕すことが困難だから。 |
|---------------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------------------|

問3 九州地方の工業の特徴について、四国地方などの近隣地域と比較した際の説明として正しいものを次の中から選びなさい。 (2017年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. かつての八幡製鉄所を中心とした重化学工業から、現在は内陸部での石油化学コンビナート形成へと主流が移っている | 2. 瀬戸内工業地域とのつながりが強く、大型船の往来が可能な沿岸部での造船業が内陸工業よりも圧倒的に盛んである | 3. 九州全域で重厚長大な鉄鋼業が発展しており、高速道路は主に製鉄に必要な原材料の陸上輸送を支えている | 4. 内陸部の交通網の発達により、空港や高速道路の近くに集積回路（IC）などの工場が数多く立地している |
|--|---|---|---|

問4 宮崎県の自然環境と産業の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 東京都公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 県全体が火山灰の降り積もった広大な台地に覆われており、大規模な機械化による小麦の生産とIT産業の集積が特徴である。 | 2. 北部の山地から南へ流れる河川によって平野が形成されており、温暖な気候を背景に近年はITシステム開発企業なども立地している。 | 3. 複雑に入り組んだリアス海岸が北部に広がっており、冷涼な気候を活かしたリンゴの栽培が平野部で盛んに行われている。 | 4. 県庁所在地の人口が100万人を超えており、九州地方の政治・経済の中枢として、主に自動車産業の工場が平野部に集中している。 |
|--|--|--|---|

問5 鹿児島県の農業産出額は約4435億円と非常に高く、そのうちの約2837億円が畜産によって生み出されています。このように畜産の割合が極めて高い背景にある、この地域の自然環境の説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 季節風の影響を強く受けるため、寒冷な気候に強い作物の栽培が優先されたため。 | 2. 年間を通して温暖で降水量が多く、二期作などの米づくりに適しているため。 | 3. 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に向きであったため。 | 4. 平野が少なく山がちであるため、急斜面を利用した果樹栽培が中心となったため |
|--|--|---|---|

問6 北西から南東に向かって緩やかに標高が低くなっている台地において、地形の特徴に合わせた一般的な土地利用の説明として正しいものはどれですか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 標高にかかわらず、北西側は冬の季節風を避けるために住宅地となり、南東側はすべて畑として利用される。 | 2. 標高の高い台地の上は水が得やすいため田として利用され、標高の低い谷底の平地は浸水の危険があるため畑として利用される。 | 3. 標高の高い台地の上は水が得にくいいため畑として利用され、標高の低い谷底の平地は水が得やすいため田として利用される。 | 4. 標高の高い台地の上は果樹園として一律に利用され、標高の低い場所はすべて森林として残される。 |
|--|---|--|--|

問7 日本の地方別畜産産出額に関する統計において、九州地方はある品目の産出額が約3348億円に達し、北海道や東北、関東といった他の地方を大きく引き離して全国で最も高い水準にあります。この品目は何ですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|------|------|--------|--------|
| 1. 豚 | 2. 鶏 | 3. 乳用牛 | 4. 肉用牛 |
|------|------|--------|--------|

問8 江戸時代の対外関係において、朝鮮との貿易や外交を独占的に行う権利を幕府から認められていた藩はどこですか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 対馬藩 | 2. 松前藩 | 3. 長州藩 | 4. 薩摩藩 |
|--------|--------|--------|--------|

問9 九州地方南部において、稲作よりも肉用牛や豚などの畜産業が盛んになった地理的な要因として最も適切なものはどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--------------------------------------|------------------------------------|---|
| 1. 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に適さなかったため。 | 2. 平地がほとんど存在せず、斜面を利用した果樹栽培しか行えなかったため | 3. 冬の寒さが厳しく、冷害によって米の収穫量が安定しなかったため。 | 4. 年間を通して降水量が極端に少なく、大規模なため池を造ることが困難だったため。 |
|---|--------------------------------------|------------------------------------|---|

問10 九州の北方に位置し、古くから日本列島と朝鮮半島を結ぶ海上交通の中継地となってきた島と、その付近を通り日本海へと流れ込む暖流の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|
| 1. 対馬・リマン海流 | 2. 壱岐・対馬海流 | 3. 対馬・対馬海流 | 4. 壱岐・日本海海流 |
|-------------|------------|------------|-------------|

問11 九州の北西から日本海へ流れ込む対馬海流は、日本の気候、特に冬の日本海側の気象に大きな影響を与えています。この暖流が冬に大量の雪をもたらす仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 対馬海流の影響で冬でも海面温度が下がらないため、低気圧が急速に発達しやすくなり、日本海沿岸にだけ局地的な大雨をもたらす。 | 2. 暖流によって海水が冷やされることで上昇気流が抑えられ、乾いた風が吹き抜ける際に、山地で急激に冷却されて結晶化した雪が降る。 | 3. 寒流と暖流がぶつかることで濃い霧が発生し、その湿った空気が季節風によって内陸へと運ばれることで雪へと変化する。 | 4. 暖流である対馬海流の上空で、大陸からの冷たく乾燥した季節風が水蒸気を蓄えて湿った空気となり、山脈にぶつかって雪を降らせる。 |
|---|--|--|--|

問12 九州南部の宮崎県や鹿児島県では、農業産出額の約6割を畜産が占めています。このように、この地域で豚や肉用牛、鶏などの飼育が盛んになった地理的理由として最も適切なものはどれですか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 海岸沿いに広がる平坦な埋立地を利用して、海外から輸入した飼料を直接加工する大規模な工場と農場が直結しているため。 | 2. 火山灰を主成分とするシラス台地が広がっており、水持ちが悪く稲作に適さなかったため、広大な土地を利用できる畜産が行われるようになった。 | 3. シラス台地は栄養分が豊富な土壌であり、家畜の餌となるトウモロコシや小麦の生産が国内で最も盛んに行われたため。 | 4. 温暖な気候を利用して年に2回米を収穫する二期作が衰退し、その跡地をすべて牧草地に転換したため。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 人口密度の高い県：福岡県、豚の産出額が多い県：鹿児島県	福岡県は九州地方の政治・経済・文化の中心地であり、人口が約510万人に達し、人口密度も1000人/km ² を超える都市化が進んだ県です。一方で、鹿児島県はシラス台地が広がる土地条件を活かして豚や肉用牛などの畜産業が非常に盛んであり、豚の産出額は全国でも有数の規模を誇ります。
問2	答え 2 土壌の粒子に隙間が多く水はけが非常に良いため、水田に必要な水を確保しにくいから。	シラス台地を構成する火山灰や軽石は、非常に水を通しやすい性質を持っています。雨が降っても水が地中に浸透してしまい、表面に溜まらないため、大量の水を張る必要がある水田稲作には適していませんでした。この地理的条件を克服するために、水が少なくても育つサツマイモなどの栽培や、広い土地を利活用した豚や鶏などの畜産業が発展しました。
問3	答え 4 内陸部の交通網の発達により、空港や高速道路の近くに集積回路（IC）などの工場が数多く立地している	九州地方はかつて北九州工業地帯を中心とした鉄鋼などの重化学工業が盛んでしたが、1970年代以降は内陸部の交通インフラを活用したIC（集積回路）工業が発展しました。これは、空港や高速道路の整備によって、軽量で高価な精密機器を効率よく運べるようになったためです。四国地方の瀬戸内側（瀬戸内工業地域）などで見られる製鉄や石油化学、造船などの臨海型工業とは対照的に、内陸への広がりを見せているのが九州の工業的特徴です。
問4	答え 2 北部の山地から南へ流れる河川によって平野が形成されており、温暖な気候を背景に近年はITシステム開発企業なども立地している。	宮崎県の地形は、北部に山地があり、そこから南へ流れる河川によって中央部に平野が形成されているのが特徴です。産業面では、豊かな自然環境や温暖な気候を背景とした園芸農業に加え、地方への企業進出の流れの中でITシステム開発関連の企業誘致も進んでいます。なお、人口約100万人は県全体の規模であり、県庁所在地の人口は約33万人です。
問5	答え 3 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県（特に大隅半島や薩摩半島）には、桜島などの火山活動による堆積物でできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水が染み込みやすく、大規模な水田を作るのが難しかったことから、古くからサツマイモや茶などの畑作、そして広大な土地を活かした肉用牛や豚の飼育といった畜産業が盛んになりました。この歴史的な土地利用の背景が、現代の高い畜産産出額につながっています。
問6	答え 3 標高の高い台地の上は水が得にくいとため畑として利用され、標高の低い谷底の平地は水が得やすいため田として利用される。	日本の台地における土地利用は、水へのアクセスのしやすさに大きく左右されます。標高が高い台地の上面は、地下水位が低く、周辺の河川からも高低差があるため水を引きにくいことから、乾燥に強い作物を選ぶ畑作が行われます。これに対し、台地が削られた標高の低い場所は、地下水が湧き出したり川の水を導入しやすかったりするため、古くから水田として開発されてきました。
問7	答え 4 肉用牛	九州地方、特に鹿児島県や宮崎県は日本有数の畜産地帯です。広大な土地や気候条件を活かし、肉用牛の生産規模は全国で突出しています。一方で、乳用牛については北海道が全国の産出額の過半数を占めており、九州地方の特色とは異なります。
問8	答え 1 対馬藩	江戸幕府は「鎖国」体制下でも特定の四つの窓口（四つの口）を通じた交流を認めていました。対馬藩（宗氏）はその一つとして、朝鮮との外交実務や貿易を独占しました。ちなみに、薩摩藩は琉球、松前藩はアイヌの人々との交流をそれぞれ担当していました。
問9	答え 1 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に適さなかったため。	南九州には、火山の噴出物による「シラス台地」が広がっています。シラスは水はけが非常に良く、水分を蓄える力（保水力）が低いため、水を張る必要がある稲作には適していませんでした。そのため、広大な土地と温暖な気候を利用して、牛や豚を育てる畜産業や、畑作が発展しました。
問10	答え 3 対馬・対馬海流	九州の北方に位置する対馬は、朝鮮半島との距離が近く、古くから外交や貿易の要衝としての役割を果たしてきました。この対馬の近海を通り、東シナ海から日本海へと北上する暖流は対馬海流と呼ばれます。選択肢にある奄岐は対馬と九州本土の間に位置する島であり、リマン海流は日本海を南下する寒流のことです。
問11	答え 4 暖流である対馬海流の上空で、大陸からの冷たく乾燥した季節風が水蒸気を蓄えて湿った空気となり、山脈にぶつかって雪を降らせる。	対馬海流は黒潮（日本海流）から分かれて日本海を北上する「暖流」です。冬になると、ユーラシア大陸から冷たく乾燥した北西の季節風が吹きますが、この風が比較的暖かい対馬海流の上を通過する際、海面から蒸発した大量の水蒸気を吸収します。水分を含んで湿った空気となった季節風が、日本の脊梁山脈にぶつかって上昇することで雲が発達し、日本海側に世界的な豪雪をもたらす原因となります。
問12	答え 2 火山灰を主成分とするシラス台地が広がっており、水持ちが悪く稲作に適さなかったため、広大な土地を利用できる畜産が行われるようになった。	九州南部に広く分布するシラス台地は、過去の巨大噴火による火山灰などが積み重なってできたものです。この地層は水はけが非常に良く、水分を保持する力が弱いため、大量の水を必要とする稲作（水田農業）には向いていませんでした。そのため、古くからサツマイモなどの畑作が行われるとともに、広大な土地を活かした豚や肉用牛、鶏などの畜産業が発展し、現在では日本有数の畜産地帯となっています。